# 公開講座ダイジェスト2024

## 跡見学園女子大学公開講座の記録

ATOMI
UNIVERSITY

# 刊行にあたって

大学が地域のみなさんに公開講座を開催する目的は、いうまでもなく教員たちの有する最新の専門的知見に触れてもらうことです。変化の激しい現代。わたしたちは絶えず時代状況へのアップデートをしていかなければなりません。それには最新の情報に基づいて価値観を更新する必要があります。今年度の講座が、受講者のみなさんの知的好奇心を刺激し、社会の〈いま〉に対する興味を喚起することができたとすれば幸いです。

春期・新座キャンパスのテーマは「こころの病気と家族」。5 人に 1 人はうつ病を経験すると言われるように、多くの方がさまざまなこころの病を抱えています。こうした状況とどう向き合えばいいのか。本人だけでなく家族の視点からも対処法を考えました。文京キャンパスの「朗読・跡見ゆかりの作家と作品」では、受講者のみなさんに朗読の愉しさを体験してもらいました。これを機に朗読に親しんでいただけることを期待しています。

秋期・新座キャンパスでは「文化マネジメントの未来」をテーマに、文化芸術が現代社会で新たな価値を生み出していくにはマネジメントの力が不可欠であることを学んでいただきました。文京キャンパスの「レジャーを読み解く」は、スイス・銀座・地中海という観光人気スポットに焦点を当て、内外のレジャーの変遷を振り返りました。

令和 7 年 3 月

跡見学園女子大学

学長　小 仲 信 孝

# CONTENTS


刊行にあたって　　跡見学園女子大学　学長　小仲　信孝　1

春期教養コース（新座キャンパス）　3
「こころの病気と家族」
１．　もしも家族が「うつ」になってしまったら
本学心理学部臨床心理学科　教授　酒井 佳永
２．　成人期発達障害の人とパートナー
本学心理学部臨床心理学科　教授　宮岡 佳子
３．　家族が支援する摂食障害の回復
本学心理学部臨床心理学科　教授　鈴木 眞理

春期教養コース（文京キャンパス）　6
「朗読・跡見ゆかりの作家と作品」
１．朗読への招待
本学文学部コミュニケーション文化学科　教授　渡部 英美
２．樋口一葉を朗読する
本学兼任講師　八柄 順子
３．岡本かの子を朗読する
本学兼任講師　黒沢 保裕

秋期教養コース（新座キャンパス）　１０
「文化マネジメントの未来」
１．　何故、文化マネジメントが必要なのか
本学マネジメント学部マネジメント学科　教授　曽田 修司
２．　文化芸術のためのセルフマネジメント／グローカルマネージメント
本学兼任講師　嘉藤 笑子
３．　現代社会の複雑性と文化芸術のマネジメント
本学マネジメント学部マネジメント学科　専任講師 吉川 侑輝

秋期教養コース（文京キャンパス）　１３
「レジャーを読み解くー古（いにしえ）のアルプス・銀座・地中海」
１．観光大国スイスの発見－18～19 世紀の人気スポットを巡って
本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科　教授　河村 英和
２．カフェーから見る銀座史－赤い灯青い灯の物語
本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科　准教授 小関 孝子
３．ぐるっと地中海－日本人の出国が１千万人を超えたころ
本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科　教授　臺　純子

受講生からのレポート　１６

資料

公開講座春期教養コース（新座キャンパス）

# 「こころの病気と家族」

**2024年6月15日～6月29日（毎週土曜日）〈全3回〉**

**〈講座責任講師〉 本学心理学部臨床心理学科　教授　宮岡 佳子**

近年はこころの病気になる人が増加している。国は医療計画に取り込むべき４大疾患として、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病をあげた。さらに、2013年より精神疾患つまりこころの病気が加わり、５大疾患となった。こころの病気が国の対策としても重要であることを意味する。

ところで、こころの病気の改善には、家族のサポートが大切な要素である。しかし、病気を抱える人と家族との関係は、うまくいかないこともある。病気の当事者の方は、家族のサポートを求める一方で、家族を疎ましく思うこともあるかもしれない。家族は、当事者の病状を心配し、どう接したらいいか悩むが、時としてサポートに疲れてしまうこともある。

そこで心理学部では「こころの病気と家族」をテーマとし、心の病気を抱える人と家族との問題を取り上げて講座を行った。対象疾患は、「うつ病」「成人期発達障害」「摂食障害」である。新座キャンパスにて、対面とオンラインのハイブリッド形式とし、3回のシリーズとした。

第1回（6月15日）
もしも家族が「うつ」になってしまったら
　講演者　酒井佳永（本学教授）
第2回（6月22日）成人期発達障害の人とパートナー
　講演者　宮岡佳子（本学教授）
第3回（6月29日）家族が支援する摂食障害の回復
　講演者　鈴木眞理（本学特任教授）

3回ののべ参加者は93名（対面71名、オンライン22名）であった。参加者の年代では、各回とも50代と70代が過半数を占めた。アンケートに回答した人の中で、「受講により、内容について興味や関心が深まったか」の質問に対し、深まったと回答した人は93.6%であった。参加する人の中では、テーマとなった疾患に興味を持って参加している人と、毎回本学の講座を受講している人がいた。前者の方にはより深い学びになり、後者の方には今まで知らなかった疾患について知るよい機会になれたと思う。

## 〈第１回　６月１５日〉
## もしも家族が「うつ」になってしまったら

**本学心理学部臨床心理学科教授**
**酒井 佳永**

日本では、約 13 人から 15 人に 1 人が生涯に一度うつ病を経験することが報告されており、うつ病は決してめずらしい病気ではない。うつ病は家庭生活や仕事など、社会生活全般に大きな影響を及ぼし、症状が改善した後も、病前のように働いたり、生活したりできるようになるまで、一定期間のリハビリテーションが必要になることが多い。またうつ病は再発しやすいため、再発防止にも留意して生活する必要がある。

このように比較的長期にわたるうつ病治療において、患者と生活を共にする家族は患者を支える役割を期待されやすい。その一方で、家族も様々な困難を経験している。そこで本講座では、うつ病患者の家族が体験する困難に焦点をあて、身近な家族がうつ病になってしまったときの対処法や、家族が利用できる支援について講義を行った。

当日は、まずうつ病の症状、経過、治療に関する基本的知識を解説した。次に、家族の感情表出（Expressed Emotion）はうつ病の再発率に強く影響すること、感情表出の背後には、家族が体験している負担があることを解説し、まずは家族自身がサポートを受けることが重要であることを説明した。

その後、うつ病の急性期、回復期など、治療経過

に伴って家族が体験しやすい困難について解説しながら、具体的な対処法や相談窓口について説明を行った。また家族を支えてくれる「応援団」をつくること、家族自身のケアの重要性についても解説した。

時間の関係で、講義時間内に質疑応答の時間をとることはできなかったが、講座終了後に教室に残り、対面参加の受講者から質問を受ける時間をとった。受講者アンケートから、受講者の中に、家族の立場の方、自分自身がうつを経験した方など、さまざまな方がいたことがわかった。それぞれの立場から、家族支援の重要性を理解していただけたのではないかと考えている。

〈第２回　６月２２日〉

**成人期発達障害の人とパートナー**

**本学心理学部臨床心理学科教授**
**宮岡 佳子**

近年、成人で発達障害と診断された人が増加している。発達障害は、人間関係や仕事において、様々な支障をきたす。家庭においては、パートナーとの関係に双方が苦労することも多い。そこで成人期発達障害の人とパートナーとの関係に焦点をあてた。

最初に、発達障害のうち、主な疾患である自閉スペクトラム症（ASD：Autism Spectrum Disorder）、注意欠如多動症（ADHD: Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder）を説明した。ASD は（1）対人交渉の質的な問題、（２）コミュニケーションの質的な問題、（３）イマジネーションの障害、（４）感覚異常がある。ADHD は（１）不注意、（２）多動性と衝動性がある。

次に、成人期発達障害の人が恋愛、結婚に関して感じる困難について解説した。女性よりも男性のほうが困難を感じることが多く、ASD 男性において目立つ。一方、発達障害者のパートナーが、発達障害特性による言動、例えば会話をしても反応がない、作業の手際が悪い、忘れっぽいなどで、パートナーが不安や孤立感を深めることがあり、この状態をカサンドラ症候群と呼ぶ。主に女性（妻）にみられる。正式な病名はないが、メディア等を通じて一般の人にも知られるようになった。以上の説明では、架空症例を提示して、イメージしやすいようにした。

最後に、成人発達障害の人とパートナーへのアドバイスを挙げた。（１）発達障害について学ぶ、（２）発達障害の人にして欲しいことは、言葉がけやメモ書き等聴覚と視覚の両方の刺激を用いる、（３）発達障害ではパニックや抑うつなどの二次障害をおこすことがある、（４）規則正しい生活を送る、（５）話し合う時間を持つと同時に、別々に好きなことをする時間も持つ、（６）困ったことは相談し自分たちで抱え込まない、である。

講演で、発達障害とそのパートナーの双方の問題や向き合い方に、理解が深まったならば幸いである。

〈第３回　６月２９日〉

**家族が支援する摂食障害の回復**

**本学心理学部臨床心理学科教授**
**鈴木 眞理**

摂食障害に罹患している当事者をケアする家族は、心身の負担が精神疾患の中で最も大きく、自身の精神不調を伴うことが明らかにされています。一方、家族の当事者への批判、敵意、過度の感情的巻き込まれなどの感情表出が強い場合、疾患の予後が悪くなります。そこで、当事者の回復のために家族を対象にした心理教育が有効です。私どもも、家族教室は家族の患者への対処可能感を向上させて、精神的負担を軽減できることを示しています。

摂食障害の家族ではない方も含めて 22 名が参加されました。文部科学省は 2022 年から高校の保健体育に摂食障害を含めた「心の病気」の学習を約 40 年ぶりに復活させました。ただ、一般社会には「神経性やせ症（拒食症）はダイエットが原因」「過食は意志が弱いから」などの誤解や偏見がまだあり

ます。やせやむちゃ食いは「回避」というストレス対処方法であること、病気なので自制できないこと、遺伝や先天的な脳機能など背景因子があることなど解説しました。家族が摂食障害の原因であるという研究は見当たらず、むしろ、回復の資源とみなされています。欧米における小児の摂食障害治療の第一選択は、家族が当事者の食事と運動を監督する Family based treatment (FBT) になっているほどです。家族の感情にはクラゲ、ダチョウ、セントバーナード犬タイプが、行動にはカンガルー、サイ、イルカタイプがあり、穏やかで暖かに落ち着いて相手の気持ちを考える「セントバーナード犬」の感情で本人のペースに合わせて程よく指示を与える「イルカ」の行動が勧められると紹介しました。さらに、話の聴き方のコツ（相槌、オウム返し、気持ちの反射）、意見を言うときは「私」を主語にする、会話では相手のできている良い面に着目する、問題解決のコツなどを解説しました。これらは摂食障害の当事者に限らず、子育てに参考になるとの参加者の感想をいただきました。

公開講座春期教養コース（文京キャンパス）

# 「朗読・跡見ゆかりの作家と作品」

**2024年7月6日～7月20日（毎週土曜日）〈全3回〉**

**〈講座責任講師〉本学文学部コミュニケーション文化学科　教授　渡部　英美**

今回の公開講座のテーマは「朗読」。普段はなかなか声に出して読む機会のない方を対象に、自由に楽しく作品を声に出していただこうという趣向にした。朗読には、語り手と聞き手がいる。ひとりで勝手に読むのではなく、相手を意識して読み伝えるということを目標にした。

そのためには、作品理解と音読という二つのことを同時に行っていただくことになる。

タイトルは、朗読・跡見ゆかりの作家と作品―先人の思いを参加者の「声」で伝える―とした。

跡見学園女子大学には開学から数えて 150 年の歴史がある。現在の跡見女子大文京キャンパスの近くに住んで作品を生んだ樋口一葉、跡見の学び舎で育ち日本を代表する作家となった岡本かの子、山本道子の作品を 3 回にわたって朗読するものとした。

日時と内容は以下の通り。時間はいずれも午前 10 時～11 時 30 分の 1 時間 30 分で実施した。

７月６日（土）　朗読への招待

担当講師　文学部コミュニケーション文化学科　教授　渡部英美

初日のこの日は、まず「読んで伝える基本」について講習した。読むことは読み上げることではなく、作品の内容を聞き手に届けることである。そのためには、文字を追うのではなく、作品の空気感や時代性まで届ける余裕が望まれる。すぐ声に出して読み始めるのではなく、黙読を繰り返し、そこから読み手の世界を広げていくことが求められる。作品の中に入っていくが、独りよがりにならずに読み伝える大切さを体験した。

続いて、岡本かの子の「池に向かいて」と山本道子の「ベティさんの庭」の二編を朗読した。初めての朗読に、参加者はどう取り組むか迷いながら声を出し始めたが、30 分ほどで全員がリラックスして朗読を楽しんだ。

参加者からは、「初めて人前で読む時の基本原則を学びました」とか、「久々に発表して緊張したが楽しくよい経験でした」、「朗読の難しさと奥深さを理解できてよかったです」といった感想が寄せられた。

７月１３日（土）　樋口一葉を朗読する

担当講師　本学兼任講師　八柄順子

樋口一葉は、明治時代を代表する女性作家のひとりである。

この日は、名作「たけくらべ」の朗読に挑戦した。明治時代の言葉遣いが使われ、表記も当時のもので記されているので、まず現代語訳で内容を理解することから始めた。そのうえで、十代の少女と少年の恋心を感じ取り、これから大人になっていくことの不安や悲しみをどう表現するかを、読み手一人一人が考えて音読に挑戦した。物語の情景を思い浮かべ、登場人物の気持ちを感じ取りながら読むことに取り組んだ。

講師の音読に続いて、参加者全員がそれぞれの読み取りの表現で朗読し、教室が一体になった様子がうかがえた。

参加者からは、「樋口一葉の作品をテキストに学んだことはとてもうれしい」とか、「原文は難しいが、朗読すると文が生き生きと感じられる、楽しかったです」、「八柄先生の後について全員で朗読することでリズムや句読点などと共に、情景が目に浮かぶようになりました」といった感想が寄せられた。

７月２０日（土）　岡本かの子を朗読する

担当講師　本学兼任講師　黒沢保裕

岡本かの子も明治時代に跡見女学校で学んだ跡見ゆかりの人物である。芸術家・岡本太郎の母としても知られている。かの子は、歌人、仏教研究家、小説家と様々に活動する一方で家庭を持ちながら男性遍歴を繰り返す奔放な女性でもあった。

今回朗読する作品は「気の毒な奥さま」「家霊」である。詩人や小説家としても知られる彼女の独特な視点や感性が反映された作品である。講座では、晩年に専心した小説の代表作の一部を参加者の朗読で味わいながら、その作品世界と波乱に満ちた人生を辿った。

参加者からは、「文章にある情景描写を丁寧に説明していただいたので作品がより理解できた」とか、「朗読するために必要な事、心がまえの理解が深まった」、「ＮＨＫのラジオ深夜便で聴いている黒沢先生の穏やかな語りで、とても分かりやすく学びが深まりました」といった感想が寄せられた。

〈第１回　７月６日〉

## 朗読への招待

**本学文学部コミュニケーション文化学科教授**
**渡部 英美**

これから、作品を朗読するにあたり、現在の跡見学園女子大学がその前身から数えて 150 年になろうとしていることを伝えた。その文化と歴史の中から、日本を代表する女性作家が誕生した。こうした歴史の中から、今回の朗読の課題作品は、跡見ゆかりの作家の作品であることをお伝えした。

まず「読んで伝える基本」について講習した。読むことは読み上げることではなく、作品の内容を聞き手に届けることである。そのためには、文字を追うのではなく、作品の空気感や時代性まで届ける余裕が望まれる。すぐ声に出して読み始めるのではなく、黙読を繰り返し、そこから読み手の世界を広げていくことが求められる。そのためには、「読む」を「話す」に近づけることが必要である。そのためには、聞き手を意識すること、自然な声で読むことを伝えた。聞き手は少し先にいて、そこに声が届くようにする。大きな声をだすのではなく、声に方向性を持たせるということをそれぞれが体験した。さらに「意味のまとまり」について考えていただいた。どこまでが、ひとつの意味のまとまりなのかを黙読で把握し、その通りに息を使うことで作品に合わせた伝え方ができるようになる。そして、聞き手の腑に落ちるように、読み急がずに「間」を意識するということを学んでいただいた。最終的には作品の中に入っていくが、独りよがりにならずに読み伝える大切さを体験した。

併せて、声を届けるための発声や活舌、イントネーションといった基礎についても講習した。特にイントネーションについては、主語と述語の位置が離れていても、文頭を高く入って低く流れ落ちていくという原則を学んでいただいた。自分勝手なイントネーションで読まないことはなかなか大変な作業である。さらに、句読点は筆者が伝える読み手に向けての楽譜であるということを意識して、筆者の思いを受けて朗読につなげることを意識していただいた。

作品の朗読は、岡本かの子の「池に向かいて」から始めた。

「池に向かいて」は昭和 15 年の作品である。現在残されている古今書院刊と記された冊子の表紙には「随筆集　池に向ひて　岡本かの子」と記されている。そこには、右から左に向って文字が並んでいる。横書きで、現代とは逆向きの配置である。タイトルは、池に向ひて、であり、旧仮名遣いである。「向ひ」の終止形は「向かふ」である。太平洋戦争以前のこの時代、書籍ではまだ伝統的な仮名遣いであった。

第一章は「だんまり女學生」である。ここでも「学」の文字が旧字体になっている。冒頭は「校長先生をお師匠様と呼んでゐた私の女學校跡見女學校はその昔倫理科に論語を用ひ、」と始まる。ここでも「ゐた」「用ひ」のように同じ仮名遣いである。

この時代の跡見の様子をこの作品は詳細に紹介している。校長先生は跡見花蹊女史と記されていて、高いレベルを保つために普通の高等女学校にしなかったと記されている。

跡見ゆかりのこの作品の冒頭を参加者が交代で朗読した。参加者はどう取り組むか迷いながら声を出し始めたが、すぐに全員がリラックスして朗読を楽しんだ。

仕上げに山本道子の「ベティさんの庭」を朗読した。山本道子は昭和 32 年に当時の跡見学園短期大学を卒業した。結婚後、夫と共にオーストラリアで 3 年間過ごした経験がある。「ベティさんの庭」にはそうした経験が色濃く反映されている。この作品で山本道子は芥川賞を受賞した。まさに跡見ゆかりの大作家と言える。

朗読は「ベティさんの庭」の冒頭部から始めた。オーストラリアでマイクと結婚し、海外生活に素敵な夢を見ていた四国産まれの柚子が、オーストラリアに移住し洗礼を受けてエリザベスというクリスチャンネームを受けてから、ベティさんと呼ばれるようになる。その後の平凡でありながら波乱含みの人生をベティさんの「わたし」の視点で読んでいく。

女性の参加者が多かったせいもあるかと思うが、自分の人生に引き寄せて作品に寄り添いながら朗読する様子がうかがえた。

このように、朗読という実技の文化に参加者は第一歩を踏み出した。

〈第２回　７月１３日〉

**樋口一葉を朗読する**

**本学兼任講師**
**八柄 順子**

樋口一葉の作品は、平安時代の文体を真似た「擬古文」で書かれており、朗読以前に、黙読するのも難しい。そこで今回の講座の目標を「一葉の文体に慣れる」に定めた。

はじめに一葉の年譜と跡見学園との関わりを紹介した。一葉は明治 5 年に生まれ、明治 29 年に 24 歳で病死した。亡くなる前の 14 ヶ月間に「たけくらべ」「にごりえ」などの名作を次々に著し、その期間は「一葉の奇跡の 14 ヶ月」と言われている。

一葉と跡見学園の関わりは、一葉が文京区本郷に住んでいたときに利用していた旧伊勢屋質店にある。その明治期の建物を 2015 年に跡見学園が取得し、保存と一般公開を行なっている。

朗読の題材には「たけくらべ」から３つの場面を選んだ。意味を理解してから擬古文に取り組めるよう、テキストには現代語訳もつけた。

一つ目は、主人公の美登利を紹介する箇所。「大黒屋の美登利とて、生国は紀州、言葉のいささか訛れるも可愛く～」などは、芝居の口上のように少し節をつけて読んでみても似合う。

二つ目は、楽しく生き生きと読む練習のためにお祭りの場面を選んだ。美登利を迎えにいくよう命じられた三五郎が駆け出すときの「おっと来たさの次郎左衛門」（江戸言葉の「がってん承知の助」のような言葉）は、受講者たちも威勢よく朗読していた。

三つ目は、鼻緒を切った信如に美登利が端切れを渡そうとするが、信如が気が付かないふりをする場面。自分の恋心を知ってか知らでかそっけない態度をとる信如に、美登利が心の中で憎まれ口をきく、演じ甲斐のあるシーンだ。また遠くから声をかける母親と美登利のやり取りは、二人の位置関係や距離を意識して演じたい。

全員またはグループで読むうちに、受講者たちの朗読がなめらかになり、「一葉の文体に慣れる」という目標はある程度達成できた。

どんな文体でも、朗読の基本「情景や心情を思い浮かべて読む」は同じである。一葉作品を朗読する際は、ぜひ現代語訳付きの本で内容をしっかり把握してから取り組んでほしい。

〈第３回　７月２０日〉

**岡本かの子を朗読する**

**本学兼任講師**
**黒沢 保裕**

明治時代に跡見女学校で学んだ岡本かの子は歌人、仏教研究家、小説家と様々に活動する一方で、家庭を持ちながら男性遍歴を重ねる奔放な女性でもあった。芸術家・岡本太郎の母として知られるかの子だが、その作品に触れる機会は多くはない。講座では、彼女の波乱に満ちた生涯を辿りながら円

熟期の代表作「家霊」を朗読、その作品世界を味わった。

〈奔放な女性 岡本かの子〉

随筆「だんまり女學生」にあるように、跡見女学校時代は静かな存在だったというかの子だが、その後は数々の恋愛遍歴を重ねる。驚くべきは、岡本一平と結婚したあとも 3 人の男性と次々に岡本家で同居。中でも恒松安夫（のちの島根県知事）と外科医の新田亀三は、ロンドン軍縮会議に朝日新聞特派員として派遣される一平、かの子、太郎の一家に同行、2 年あまり共に欧米に滞在するほどの関係だった。

奔放に生きるかの子を夫一平はなぜ見守り続けたのか？その背景を考察した。

〈かの子を語る川端康成と亀井勝一郎の声〉

ＮＨＫラジオで 70 年前（1954 年）に放送された番組「婦人の時間～岡本かの子を偲ぶ～」には、彼女を語る川端康成と亀井勝一郎の肉声が残されている。

かの子が小説を書き始めた頃相談に乗っていたと語る川端。かの子の自画像でもある作品の女主人公はそれまでの日本文学にはなかったユニークな存在だと評価する文芸評論家亀井。

ＮＨＫに残る二人の貴重な肉声は、かの子作品の魅力に触れる端緒となった。

〈代表作「家霊」を声に出して読む〉

かの子の生前最後に発表された小説「家霊」は、東京山の手から下町に行く坂道にあるどじょう屋「いのち」を舞台に、家を継ぐ重圧や女性の嘆きを描く円熟期の代表作だ。亡くなった先代女将に彫金を贈り続けた職人が、家を継いだ娘に“決意に充ちて”先代との関係を語る場面は、女将への想いを秘める職人、忍従から解放される母親、“家霊”に搦めとられる予感を抱く娘、様々な思いが交錯する。

講座は、跡見ゆかりの作家の作品を通し、声で表現する楽しさ、難しさ、奥深さに触れる良い機会となった。

公開講座秋期教養コース（新座キャンパス）

# 「文化マネジメントの未来」

**2024年11月9日～11月30日　（土曜日）〈全3回〉**

**〈講座責任講師〉本学マネジメント学部マネジメント学科　教授　曽田 修司**

今期の公開講座は、「文化マネジメント」のあり方に焦点を当て、公立文化施設のマネジメント、文化芸術によるコミュニティ・地域再生プロジェクト、さらには、現代社会に特徴的な危機管理（リスク・マネジメント）としての文化マネジメントのあり方を3名の講師がそれぞれの視点から講じた。

本学では、2002（平成 14）年のマネジメント学部開設以来、「企業マネジメント・公共マネジメント・文化マネジメント」の 3 つの視点から、複眼的・領域融合的にマネジメントを学んでいる。アート・マネジメントをひとつの核としながらも、「文化マネジメント」においては、現代社会や文化政策のあり方に目を向けてきたのがひとつの特徴である。

「文化マネジメントとは何か」を問うことは、文化の視点から現代社会のありようを見ることであり、互いに異なる立場の人々の価値観に触れ、相手の文化のありようを学び、理解し、尊重しようとすることである。

現代社会において、劇場・ホールや美術館、博物館、文化催事（イベント）等は、コミュニティの社会文化的な統合をはかるための装置として機能しており、アートの持っている力を利用することで、コミュニティやコミュニケーションの創出が可能になることも確かなことだろう。言うまでもなく、歴史に学ぶことも、新たなテクノロジーで可能性を拓くことも等しく文化的で創造的な営為である。

文化マネジメントの射程は、ある社会の習俗や慣習や儀礼など、文化人類学的な遺産から、地域に伝わる伝統芸能、(いわゆる括弧つきの)「アート」、さらには、映画やポピュラー音楽、マンガ・アニメ・ゲームなどに代表されるエンタテインメントなど、非常に幅広いだけでなく、それらがすべて時代と共に刻々と変化している。今回、「文化マネジメントの未来」を標題に掲げて、そのような文化の広がりを意識する機会を持てたことは、学部創設の初心を思い起こさせてくれる貴重な経験であった。

## 〈第１回　１１月９日〉

## 何故、文化マネジメントが必要なのか

**本学マネジメント学部マネジメント学科教授**
**曽田 修司**

今日では、公立文化施設が自ら主催して文化事業（音楽、舞踊、演劇等）を行うことは、ごく普通の、あたりまえのことと認識されている。ところが、公立文化施設の歴史を遡ると、今とはまったく事情が異なっていたことがわかる。第二次世界大戦以前の我が国の地域社会では、娯楽・集客施設としての芝居小屋が大きな存在感をもっていた。他方、公立の集会施設として公会堂という建物が建てられたが、それらは文化芸術の提供を目指したものではなかった。戦後になると、次第に「文化ホール」や「文化会館」などが設置されるようになったが、それらの公立文化施設は、長く地方自治法上の「公の施設」としての運営のあり方が基本とされてきた。すなわち、ほとんどの地方自治体では、文化活動の推進は民間の個人や団体が担い、公立文化施設の役割としては「貸し館」事業がほとんどを占めていた。

これに対し、1990 年代以降、水戸芸術館や愛知芸術文化センター、彩の国さいたま芸術劇場、静岡舞台芸術センター、世田谷パブリックシアター等をはじめとして、各地に演劇、音楽、ダンス等の専用劇場・ホールが整備され、それらの専用劇場・ホールでは、「演劇の公共性」の議論を踏まえて、「創造する劇場」を目指すところが現れた。そうした一部の「公共劇場」では、芸術監督を置き、専属の劇団、舞踊団、楽団を組織するなどの先駆的な試みが始まった。

第１回講義では、公立文化施設において何故そのような変化が起こったのかの要因を探るとともに、その後、「劇場法（通称）」の制定（2012）や「文化芸術基本法」の成立（2017）によって、従来の文化芸術の振興だけではなく「観光、まちづ

くり、国際交流、福祉、教育、産業その他の分野における施策との有機的な連携」をはかるという「文化政策のパラダイムシフト」が各地で起こりつつある点を指摘し、新たな社会課題への取り組みとして、文化マネジメントが大いに期待されていることを講じた。

**〈第２回　１１月１６日〉**

**文化芸術のためのセルフマネジメント／グローカルマネージメント**

**本学兼任講師**
**嘉藤 笑子**

嘉藤笑子のイギリス留学中に体験した世界遺産都市・エディンバラにある現代美術館「フルーツマーケット・ギャラリー」におけるアートマネジメントの実践とイギリス美術について言及した。それは、自己体験からキュレターという仕事や、現代美術館のマネジメントに触れることで、難しいと思われがちな現代美術に理解を深めてもらいたいと思ったからである。

この期間にスコットランドの大自然のなかで制作される作品や現地のアーティストたちと出会うことで、現代社会で課題になっているエコロジとアートの関連について思考を巡らせることに至った。この滞在をきっかけに土地に見合った国際性を身に着けていくことで、アートマネジメントには、グローバルｘローカルな視野を持つことの重要性を学んだ。ここでグローカルということを意識し始めることになったのである。

そして、ロンドンに移動してからは、オルタナティヴという方法について知ることになる。公民という二者択一ではない第３の選択をもつことで、現状のシステムでは収まりきらない教育・芸術・公共などの枠組みを新たな構造によって豊かな文化事業に展開できることを学んだ。アーティスト主導による小規模芸術機関は、先端芸術表現の支援や多様性文化事業の発展につながることが分かった。つまり、アヴァンギャルド（前衛芸術）には、既成概念にとらわれない自主性や柔軟性が必要不可欠なのである。

イギリスでは、セルフマネジメントを習得することで、利潤追求だけではない社会に役立つ自分を見つめることができた。それは「独立性（インディペンデント）を担保しながら国際性を伴うオルタナティヴの光芒」を目指すことである。

文化芸術のためのセルフマネジメントの重要性は、ビジネスとアートの場合における大きな違いや共通事項を知ることにある。ビジネスの場合は、人やお金に関するマネジメントに終始するが、アートの場合は、人/こと/場という多角的な立場から捉え、国際交流、コミュニティ、エバリュエーションという必須条件があることを述べた。それは、①グローバリゼーションにおける国際交流や国際事業の重要性、②地域社会、コミュニティとの共生を目指すこと、③自己解析・自己評価を行い、反省を踏まえて、今後の事業を構築していく。という大きく３つの事柄を実践する必要性がある。

次に日本のインスティチューション（芸術機関）のマネジメントについて歴史的考察を行った。そして、現代社会という大災害/大震災やコロナの蔓延という困難な時代や、SDGs という社会包摂を望む時代のなかで 2022（令和４年）４月 15 日に改正された「博物館法」の更新について言及した。実に 70 年ぶりに改正された新たな博物館法の重要なポイントを３つの視点でとらえた。

①「社会教育法」から「文化芸術基本法」を根拠に加えることで博物館の所管は、文部科学省の生涯学習関係部局から文化庁に移行した。

②博物館登録条件と手順が変更されたことで登録博物館に関する専門性や運営方法の適正を加味することが可能になった。それにより大学や企業・ＮＰＯなど法人格の有無にとらわれない登録が可能になった。

③博物館資料のデジタルアーカイヴ化を促進、学芸員の育成強化によって質的向上がなされることになった。

上記のようなフレームワークの改革によって日本の博物館マネジメントは進展しているのであ

る。

最後に日本の地域社会に萌芽している魅力的な国際事業については、深く言及することができなかったが、日本におけるグローカルな活動は多層的な広がりを見せていて、多様性を帯びている。確実なのは個人の力でも可能なオルタナティヴという柔軟な方法を活かすことで将来的に地域社会を起点に、小規模組織でも個人経営でも大きな変動を起こすことができると考える。そこから日本に文化芸術の新たな創造拠点を誕生させることができるだろう。

## 〈第３回　１１月３０日〉
## 現代社会の複雑性と文化芸術のマネジメント

本学マネジメント学部マネジメント学科　専任講師
吉川 侑輝

近年、映画への助成金取り消しやゲームにおける歴史描写への批判などをはじめとして、文化芸術分野における表現や倫理に関わる「トラブル」が相次いでいる。背景には、ポリティカル・コレクトネス、表現の自由、そして「文化の流用」等々の観点における社会的な感度の高まりがある。SNS 上などにおいて議論が白熱化する一方、立場や価値観の違いにより論点が噛み合わず、建設的な対話に至っていない現状がある。文化芸術表現をめぐる議論の混乱は、社会の複雑化にともない各立場が異なる前提で主張を展開することに起因している。賛否の二項対立ではなく、価値観や世界観の違いを認識した上で、議論の前提を調整する必要がある。

そのようななか、文化芸術のマネジメントは、どのような役割を担うべきであろうか。一般にマネジメントは、さまざまな立場の調整を担う「交通整理」のような役割を持つが、それは文化芸術マネジメントにおいても同様である。対立を建設的な対話へと導くことは、文化芸術活動の持続可能な発展を支える基盤となる。複雑化する社会においてそれは、ときに価値判断も含む積極的なものともなる。表現の自由を擁護しつつ、対立する価値観の調整と専門的判断の自律性を確保し、建設的な対話の成立を支援することが重要である（吉田隆之、2020、『芸術祭の危機管理』水曜社）。

講座では、交通整理としての文化芸術のマネジメントの重要性を示す複数の実例を紹介した。例えば、2015 年の東京五輪エンブレム問題では、見かけ上「パクリか否か」という単純な対立が生じていたが、実際のところそれは、異なる立場からなる認識の衝突だった（加島卓、2017、『オリンピック・デザイン・マーケティング：エンブレム問題からオープンデザインへ』河出書房新社）。模倣性、類似性、独自性など、各々の関心の違いを整理できなかったことが、問題を複雑化させたのである。

文化芸術マネジメントの役割は、今後さらに重要性を増すと考えられる。しばしば文化芸術は「常識を超える」価値をもつとされるが、実際にはその制作も理解も「常識」なしには成立しない。常識を基盤としながら個別事例の丁寧な分析を行い、専門家の知見も踏まえた議論への積極的な参加を通じて、建設的な対話をその前提から実現していくことが重要である。

公開講座秋期教養コース（文京キャンパス）

# 「レジャーを読み解くー古（いにしえ）のアルプス・銀座・地中海」

**2024年12月7日～12月21日　（毎週土曜日）〈全3回〉**

**〈講座責任講師〉 本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科　教授　　臺　純子**

2024 年の秋期公開講座は、「人はどこで何を愉しんできたのか」という視点から「レジャーを読み解く」ことを試みた。「観光学」という学問分野では、経済や地域振興などに関する研究が中心で、「観光」を担う主役である「観光者」研究は、まだまだ少ないのが現状である。3 名の教員は、研究対象はそれぞれ異なるが、歴史研究という手法で共通点が多く、観光を経済活動として捉えることよりも、「誰」が、「どこ」へ、「なぜ」旅行し、そして、どのように生きてきたのか、に強く惹きつけられてきた研究者である。

公開講座に参加する受講者の多くが、高度経済成長期やバブル期を過ごし、おそらくは、海外駐在・海外旅行などの経験も豊富な世代と想定される中、今までの人生経験を振りかえりつつ、未知の世界に触れる機会となることを願って、「レジャーを読み解く―古（いにしえ）のアルプス・銀座・地中海」という講座テーマが生まれた。

第 1 回を担当した河村は、かつて英国人のスイス旅行が、ルソーやバイロンなどレマン湖畔に住んだ文人・詩人の足跡を訪ねるものであり、その後、アルプス登攀、転地療養地、高級ホテル・リゾートへと変化した、観光大国スイスの知られざる歴史を紹介した。

第 2 回担当の小関は、近代文学の舞台にもなっている「カフェー」をさまざまな蒐集資料・文献から読み解き、そこで働く女給たちにも目を向け、日本が誇る高級ショッピング街「銀座」の明治から戦後までのカフェーの変遷を描き出した。

最終回は臺が、各国政府観光局が日本人観光客誘致に注力し、円高基調を背景に、「海外旅行」が身近な愉しみになった 1980 年代半ばから、特に海外経験を通してのさまざまな学びや気づきが、私たち自身を変えてきたこと、そして未来を変えていく可能性を指摘した。

受講者アンケートによると、内容について興味や関心が高まったとの回答が、ほぼ 8 割から 9 割と好反応であった。「山についての哲学のようなものや、スイスの山々の発展についての過程について、興味深いものがありました」、「銀座の歴史、知らなかった事が大変多く参考になりました。教えていただいた本、是非読んでみます」、「地中海周辺国はイタリア、フランス、スペインは行きましたが、イスラムの国々は行ったことがなく、受講して興味が増した。行ってみたい」などのコメントをいただいた。観光の広さや深さを愉しんでいただけたようで、担当者としてうれしい限りである。

## 〈第１回　１２月７日〉

## 観光大国スイスの発見ー18～19世紀の人気スポットを巡って

**本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授**

**河村 英和**

本講座は、スイスが観光立国としての地位を築き上げてゆく 18 世紀後半から 19 世紀後半までのあいだ、スイスの主なリゾート地が、なぜ人気を獲得してきたのかという歴史を紐解くものである。

英国貴族を中心に 17～18 世紀に興隆したグランドツアーの最終目的地は、美の審美眼を養うために必須なルネサンス美術や古代遺跡に富むイタリアであり、スイスは見るべきものがない野蛮な地、アルプスはイタリアへ行くために通らざるを得ない交通路という認識だった。しかしスイスの自然科学者たちは、高山にしかない植物や鉱物を観察するため各地を巡り、その自然美にすでに気が付いていた。アルプスは壮麗で美しく、わざわざ訪れるべきものと外国人に広く知らしめたのは、1741 年の二人の英国人によるシャモニーの氷河（メール・ド・グラス）の発見、

1760 年のド・ソシュール企画のモンブラン初登攀、レマン湖畔を舞台にするルソーの小説『ジュリ、あるいは新エローズ』(1761 年) である。ルソーの影響は大きく、レマン湖畔では文学巡礼に不可欠なスポットが増えていった。もはや英国人にとって、スイスといえばジュネーヴでルソーの生家、スタール夫人のコペの城、フェルネのヴォルテール城、コロニーのバイロンの家を見ることが定番の観光ルートとなった。ローザンヌには歴史家ギボンが住んだことから、この地の最高級ホテルの名が「ギボン」と称し、バイロンが『シヨンの囚人』(1816 年) を書けば、シヨン城近くに「バイロン」という名のホテルが開業した。バイロンは、ユングフラウを舞台とする物語詩『マンフレッド』(1817 年) も書き、この名峰の知名度を高めた。英国人は、崇高なる景観のアルプス、氷河、滝、渓谷を好み、画家たちはこれらの題材を求めて描き、誰もがスイスの絵画的 (ピクチャレスク) でもある自然美に魅せられるようになった。たとえば、原作者コナン・ドイルが、シャーロック・ホームズ終焉の地にしたかったライヒェンバッハの滝は、すでに英国人によく知られていた景勝であったが、この物語のせいでますます人気となった。

スイスの高山の初登攀は英国人によって次々と成し遂げられた。1865 年、挿絵画家であったウィンパーらがマッターホルンの初登頂を果たし、19 世紀半ばはアルピニズムの黄金期と呼ばれた。スイスの山々ではケーブルカー敷設とセットで、山頂付近に高級ホテルも建設されるようになる。なかでも、ケーブルカー敷設業者でホテル企業家になったブッハー＝ドゥッラー家は、ルツェルン湖畔ビュルゲンストックの山頂リゾート開発により、イタリアやエジプトまで展開する世界初の国際ホテルチェーンを築くほどだった。

〈第２回　１２月１４日〉

## カフェーから見る銀座史－赤い灯青い灯の物語

**本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授**

**小関 孝子**

第 2 回の講座では、戦前のカフェーについて明治後期から昭和初期までを概説した。

1911（明治 44）年に、カフェーという言葉を含む飲食店が銀座に 3 店舗オープンした。カフェー・プランタン、カフェー・ライオン、カフェー・パウリスタである。そのうちカフェー・プランタンとカフェー・ライオンでは女性が給仕係となっていた。この 2 店舗によってカフェーで働く女性が注目されることになったが、これらに先んじて給仕係の女性のエプロンを付ける店が存在していた。1905（明治 38）年開業の台湾喫茶店である。台湾喫茶店の女将さんは 1904（明治 37）年の米国セントルイス万博に動員された新橋芸者であった。着物にエプロン姿という組み合わせは、カフェーで働く女性の象徴になっていった。カフェー黎明期の客層は、留学経験のあるような文壇の知識人たちや銀座界隈の新聞・雑誌社に勤務する人々であった。

カフェーの女性たちに「女給」という名称が定着したのは、関東大震災後のことである。震災で焦土化した東京の盛り場には、その後カフェーが乱立した。1924（大正 13）年に銀座にカフェー・タイガーを開業したのは、浅草でカフェーを経営していた人物であった。カフェー・タイガーは戦略的に「美人女給」を集めて一躍有名店となった。「女給」の商品化で客を通わせるカフェーのシステムが出来上がっていったのである。カフェーの女給の報酬システムは、そのほとんどが客からのチップであったため、飲食店側では人件費の負担はほとんどなかった。当時のカフェーには、店に住み込みで働くという形式が存在していたため、女給という仕事は生活に困窮した女性たちの受け皿であった。

1930（昭和 5）年になると、大阪道頓堀のカフェーがこぞって銀座に進出した。カフェーの大衆化が進み、夜の銀座通りはネオン街となった。カフェーが社会現象化したことで、1930 年前後には女給を主人公

にした小説、映画、エッセーが多数登場し、「女給ブーム」が巻き起こったのである。

〈第３回　１２月２１日〉

**ぐるっと地中海ー日本人の出国が１千万人を超えたころ**

**本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授**

**臺　純子**

本講座は、受講者自身の海外体験を思い起こしながら、「旅行」がもたらす、さまざまな側面にも目を向け、「観光」の広さや深さを愉しんでいただけるよう企図した。

前半は、ヨーロッパ周辺地図を配布し、講座で紹介するトルコ、エジプト、チュニジア、モロッコ、ポルトガル、南フランス、南イタリアの場所を確認できるようにした。国名、首都、国土面積、主要言語、簡単な歴史などを提示した後、各国で撮影した写真と、撮影時のエピソードなどを、旅の思い出話のように語る、というスタイルで進めた。

後半は、心理学の「ルビンの杯と顔」から、地中海を「図（ズ）」、陸地を「地（ジ）」とすることで、「地中海世界」が見えてくることを説明した。モロッコ王国以外はすべて共和国で、共和制＝Republic は、「公の事」というラテン語、つまり古代ローマの歴史に由来する。地中海性気候で、柑橘類やオリーブ、ブドウなどの栽培が盛ん、など「地中海世界」の共通点に気づくと、個々の旅行体験は、大きくつながっていくことになる。

1980 年代半ば、世界各国の政府観光局は日本人観光客誘致のためのプロモーションを盛んに企画した。1990 年、出国日本人が年間 1 千万人を突破し、1995 年には、1 ドル 79 円になったこともある。1980 年代からの出国日本人数増加は、意外なところで、私たちの生活を変えた。たとえばエスカレーターの片側空け。1989 年、新御茶ノ水駅から始まったというが、1976 年、通学でこの駅を利用していたころにはなかった。あるいはフォーク並び。1990 年に某銀行の顧客が、混雑する窓口をみて「海外を見習いなさい」と言ったのが始まりという。1980 年、初めての海外旅行で、バスチケット購入のため列に並び、順番に窓口に行くという方式を知り、待ち時間を平均化できる合理性に驚かされた。海外で便利な体験をした人が増え、それがスタンダードになったのではないだろうか。

出国日本人が年間 1 千万人を超えてから、すでに 30 数年。紆余曲折を経ながらも、ほぼ順調に出国数が増えてきた中で、2019 年からのパンデミックは大きな打撃となり、インバウンドは急速に回復したが、アウトバウンドは停滞している。経済格差、円安、ネットなどの社会環境変化から、内向きになりがちな若い人たちが増えているといわれる中、視野を広め、多様性に気づく機会を応援・支援することで、社会をよりよく変えることも可能ではないだろうかというメッセージを込めて、次の一節を講座の締めくくりとした。

「自分たちの文明を、間違いない見方で観察することは、決して容易なわざではない。この目的を果すには三つのはっきりした方法、即ち旅行、歴史及び民族学があり、私がこれからいわなければならないことは、すべてこの三つの方法で思いついたのだが、そのどの方法も客観性をもたらす点で外から思われるほど大きな助けとなるものではない。（中略）…欠点があるにもかかわらず、旅行、歴史及び民族学は、最上の手段であるので、私たちはできるだけ多くこれを利用しなければならない。」　バートランド・ラッセル（＝堀秀彦・柿村竣訳/1974）『怠惰への讃歌』、角川文庫、ｐ.137-138.

## 教養講座「朗読・跡見ゆかりの作家と作品」

春期教養コース（文京）受講生
瀧上　浩司

### 朗読の聴き手から語り手へ

私は当初出来るだけ多くの作品に触れる目的でラジオの朗読番組を楽しんでいました。第一に「NHK ネットラジオ　R2」の「朗読」で、漱石や荷風等の作品をベテラン俳優で聴きました。
第二に「FM 軽井沢」の「軽井沢朗読散歩」/青木裕子ですが、元 NHK だけあって漱石や荷風等の作品で、前者とステレオ放送のように聴こえました。
第三に「FM 熱海湯河原」の「朗読のお時間」で、漱石/一戸康太朗・新橋智美・小杉桜子等の作品で東京圏と感じる一方で、石井茂『湯河原文学ガイド』/中村妙子・『小道地蔵堂縁起』/上田アサエ等の地域史で東京から約 90 km地点と感じます。東京らしさと地域らしさを両方楽しめます。

毎週土日が楽しみな日々だったのですが、観光地の為、サイマル放送を休止したようです。困っていたところ、第四の「ラジオカロスサッポロ」の「木曜朗読の夕べ」と第五の「あまみ FM」の「月曜文学散歩」が見つかりました。佐川光晴『大きくなる日』 /ひかるこや島尾敏雄『死の棘』 /元野景一と言った作品を扱って、東京と違う場所に感じます。

聴き手として物知りですが、語り手の役割は?と言う関心を持って受講しました。講座の意図を掴みかねたのですが、私は「ことば力アップ」の朗読を始めようを録音して聴いていなかったのです。

第 1 回の「アナウンサーは「〇〇しました↘」とゆっくり丁寧に音を落として喋ります。」に対して、「ことば力アップ」/金野正人では「「緊急の措置を取る必要があると言っています。」→緊急の措置、措置を取る、取る必要、必要があると言う関係になって来ます。」と分かり易い例文を示しています。

第 2 回の「読点がなくても意味の切れ目で切って下さい。」に対して、「ことば力アップ」/金野正人では「作曲家が書いた休符には音は無いですが、この音の無い瞬間が曲全体を左右するような意味を持っているかのようです。」と音楽を引き合いに出しています。このようにすると、講座の意図を掴める気がします。

この他に、第 3 回は『巴里のむす子へ』と異なる『家霊』を紹介しました。作品を選ぶことによって、さり気なく黒沢先生の自然で落ち着いた響きを伝えていることに後に気付きました。

私にとって「軽井沢朗読散歩」・「ことば力アップ」と様々な演目であったものが、5 人のアナウンサーが一堂に会して遷り変わって、有意義な時間を過ごさせて頂きました。

## 教養講座「文化マネジメントの未来」

秋期教養コース（新座）受講生
関口 佳明

### 「文化マネジメントの未来」を受講して

跡見学園女子大学新座キャンパスはその前を通る国道を車で度々通りすぎるが、女子大でもありそこでの研究や教育内容も含めて興味関心は薄かった。今回、居住地近くの図書館に置かれている公開講座のパンフレットを偶然手にしたのは募集締め切りまで一週間を切るという時であった。そこで開講されるテーマ内容が、自分が関わって来た事に近く、また予てより大学の公開講座への参加を望んでいた事や、開講の日程等にも都合が良いことで受講を決めた。申し込みも WEB からと簡便で、昨今のネットへの不安も頭を過るが受講証が送られて来て安堵した。

今回のテーマ「文化マネジメントの未来」を担当する三人の先生方は大学マネジメント学部で日々学生指導に当たる方々で期待が持てた。ともすれば文化、文化事業は社会においては曖昧な存在でありつつもその分野裾野は多岐に渡る。それを三者の分野視点で時系列、分析、事例、展開と論理的かつ平易な言葉

を用い、一人一コマ（90 分）という短時間のなかで一秒たりとも無駄にしない語りが、受講者の集中力を否応無く高めていた。さらに受講者の興味関心を引き出すべく丁寧に作られ配布されたレジメ資料が講座の質をより充実したものにしている。まるで現実の大学の授業を受けているかと錯覚してしまう。公開講座で語られる事は実際の講義のさわりに過ぎないのだが、願わくは一人二コマは欲しい。内容がここから深化するという時点で終わってしまったのが残念である。

講座の個々の内容については触れないが、文化を取り巻く“ヒトモノコト”は日々進化し更新されている、と同時に様々な研究が現在進行形でなされている事に気づかされた。今回の講座の内容を頭の中で反芻し、紹介された参考文献や事象は後日の学習に活かされるべき手掛かりだ。不足している講座の二コマ目以降は自らの手で学び取れということなのであろう、そこは大学である。

学生時代から長い時間を経て今再びの大学“知”講義は、その全てに於いてとても刺激的であった。

## 教養講座「文化マネジメントの未来」

**秋期教養コース（新座）受講生**
**瀧上　浩司**

多くの市民が理解できない原因として、学校が社会人として生きていく為に必要な知識と考え方を学ぶ場所であるのに対して、文化施設が人間の生活の基本である衣食住と関係ないことが挙げられます。しかし、日本は明治維新から外国の文化を受け入れて近代化を果たしたのです。

私の例として、「日比谷公会堂（1929 年開館）で演奏したジュリアード弦楽四重奏団」と「新宿文化センター（1979 年開館）で演奏したパリ管弦楽団」が挙げられます。日比谷公会堂は残響が少なく、新宿文化センターは音が籠るそうですが、「世界一美しい響き」を目指すサントリーホール（1986 年開館）と「豊かな響き」を生み出す東京芸術劇場（1990 年開館）が誕生する前の時代で、「緻密で明快な音楽解釈」と「管楽器を始めとする音色の豊かさと華やかさ」は聴き取れていて、戦後人々を励まし、楽しませて来た世界を体感しているのです。

近年、その時代に比べて興味・関心を引くプログラムを企画する時代になりました。私の例として「カーサ・モーツァルトで開かれた川尻淳ピアノトークライブ」と「東京オペラシティ小ホールで開かれた島谷惠介 0 歳からのクリスマスコンサート」が挙げられます。前者はグリーグ：ペールギュント組曲を演奏だけではなくその深い知識とユーモアに溢れるトークで紹介するもので、後者はサンサーンス：動物の謝肉祭（島谷）・クリスマスソング集（お子様合唱）・プッチーニ：「ある晴れた日に」（矢作千鶴子）の三本立てで親子で本物の音を聴きながら成功体験もできるものです。ペールギュント組曲と動物の謝肉祭の何れも小学校高学年の音楽教科書に掲載されていて、聴衆が高齢化しているクラシック音楽界を何とか立て直そうと参加型コンサートを提案しています。私は『ウルトラセブン』の最終回で感動を与えたシューマンのピアノ協奏曲を知る世代なので、時代が変わったと感じます。

このようにして、2000 席のホールから 50 席のサロンまで乱立して、観客がホールの音響特性を検討したり、どのような企画かを検討する必要があります。年齢層が高いコンサートと年齢層が低いコンサートのそれぞれの独特な雰囲気を感じながら、今回の講座は「生き残り」をかけた取り組みについて考える機会となりました。

## 教養講座「文化マネジメントの未来」

**秋期教養コース（新座）受講生**
**嶋田　佳美**

### 「小さな冒険」

「文化や芸術のマネジメント」の講座は、芸術作品を制作する人やイベントを企画する限られた人の視点だろうと思っていました。

ところが、3 回出席させていただき、受け手として

観る側にもマネジメントがあるのかもしれない、と感じた時に文化芸術のマネジメントが自分ごとに変わっていました。おかげで、私は小さな冒険をすることができました。

そのきっかけは、自分や自分の生活をマネジメントしてみたら、おもしろそうだと思ったことです。ちょうどその頃、ドキュメンタリー映画を企画、監督した人の話をラジオで偶然に聞き、「この映画を観たい！」という気持ちが沸き上がってきました。調べると上映館は全国で4館のみで、あと数日で上映終了。1人で映画を観に行くことなど苦手で、いつもなら諦めてしまいます。でも、今回は自分マネジメントのスイッチが入いりました。「1 人で電車を乗り継ぎ、この監督のドキュメンタリー映画を観る計画」を立てました。電車の時刻や映画館までのアクセスなど書き、失敗してもドンマイだからと自分と相談して出発。途中、ドキドキの連続でしたが、オシャレな若者達の中を歩き、映画館に到着しました。1人映画を楽しみ、映画の制作に携わった方々の思いや熱意に触れることができたようで、嬉しくなりました。

行くか行くまいか、とても迷ったのですが、「マネジメント」の言葉に勇気をもらい、行動できました。なりたい自分のプロデューサーになったら、ちょっと違う何かが見えるかもしれない、と思えた出来事でした。今回の講座の主旨と外れてしまうと思いますが、すばらしいきっかけをいただき、感謝しています。どうもありがとうございました。

## 教養コース「文化マネジメントの未来」

**秋期教養コース（新座）受講生**
**和田　崇子**

令和6年11月に跡見学園女子大学（新座）で3回程、受講した講座をまとめてみました。

結論から申し上げますと、日本では年々、劇場や多目的ホール等が閉鎖されている。営業を継続して行く為には、お客様に劇場等にお越しいただき実際に出費してほしいと言う事だ。資金不足の為、人材確保（技能の引継ぎや給与の事か。）や劇場等の維持費が少なく、従って閉鎖される状況に追い込まれる。

海外と日本の美術館の違いにも触れていたが、やはり海外でも資金不足のようだ。

最終講義では日常の習慣と、それに相反する行動をとる双方の対立が挙げられていた。私が最近観たTV（テレビ）の歴史番組で武田信玄と上杉謙信について、ある歴史家の言葉が心に残っている。「(双方は、)正義と正義のぶつかり合いである。」この最終講義の件でも各々が異なる前提に立つので意見の対立が生じる。文化マネジメントは状況を適切に判断し交通整理をする事が大切であると、講師は伝えていた。言い換えると、ボクシングのレフリーのようなものなのかと思う。

お客様に実際に劇場等にお越しいただく方法として2項目とりあげる。①入場料を安価にし、万人に鑑賞してもらい常連客を増やす。②底辺拡大に取組み、小学生等対象にして観劇、映画、美術鑑賞等を通(とお)して、将来のお客様候補又は将来のスタッフ候補の確保を目ざす。

昔、ある美術館を訪れ、シカン文明の出土品や貴重品を鑑賞する機会があり人生の中で有意義な時であった。その美術館も閉鎖されて久しい。福澤諭吉先生の著書中の有名な文章が私の座右の銘の 1 つだ。公立小学校時代の恩師に教わった文章だ。最終講義では、まとめると「本人の常識は他人にとっては非常識である事。」だ。この言葉を私自身、肝に命じようと思う。　　以　上

## 教養コース「レジャーを読み解く－古(いにしえ)のアルプス・銀座・地中海」

**秋期教養コース（文京）受講生**
**和田　崇子**

令和6年12月に跡見学園女子大学（茗荷谷）で3回程、受講した講座をまとめてみました。

結論から申し上げますと、過去の旅の記録と記憶とを思い出す事によりその経験を生かして過去、現在、未来の社会に貢献する事だ。

スイスの山を題材に「崇高」と言う山についての哲

学を取り上げていた。日本の山岳信仰に近いものを感じ、日本では山伏等が険しい山に入り修業をする。日本を代表する山と言えば富士山がある。各地に富士塚があり、本物の富士登山と同等の御利益（ごりやく）があると言われている。富士山は日本人や世界の人にとって絶大なる人気である。又、日本でも有名な観光地や著名人巡りも人気である。

日本が西洋化する発端は災害からの復興である。銀座の 3 回の焦土化後の復興を取り上げ、女性の社会進出の呼び水にも繋がったが、女性の悲しい歴史と結びついている。歴史的に男性社会であると感じた。

旅行等の経験により自我の確立がなされ、世界の地域毎の文化を学び、日本と比較する事によって視野が広がる。自他の考えの相違を明確に認識する事が今後の観光支援、観光振興の大事な役割になってくる。例えば、観光でお金を落とす事により経済が活性化される。現在、オーバーツーリズムや円安でインバウンド消費の問題が生じる。日本の古き良き観光地に限らず、日本人には余り馴染みの無い地域にも外国人は訪れる。

平成元年当時、円高で欧州等に卒業旅行に出掛ける事が社会現象になっていた。その時の外国人の気持ちはどうであったのか、定かではないが…。古今集の一節を取り上げる。「形こそ、深山隠れの朽木なれ、心は花に為さばなりなむ」兼芸法師（古今集　巻十七雑歌上　875 番）

以　上

# ■ 資 料

令和６年度　春期

# 跡見学園女子大学の
# 公開講座のご案内

## 新座キャンパス

令和６年
6/15 〜 6/29
毎週土曜日〈全３回〉

ご本人とその家族のためにできること

教養コース

### こころの病気と家族

後援：埼玉県教育委員会・新座市教育委員会

## 文京キャンパス

令和６年
7/6 〜 7/20
毎週土曜日〈全３回〉

先人の思いを参加者の「声」で伝える

教養コース

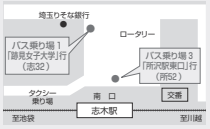
### 朗読・跡見ゆかりの作家と作品

後援：文京区・公益財団法人文京アカデミー

跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY

## 新座キャンパスへのご案内

● **東武東上線**（地下鉄有楽町線・副都心線）
「志木駅」下車　南口より西武バス約15分
「跡見女子大」下車




● **JR武蔵野線**
「新座駅」下車　北口より西武バス約７分
「跡見女子大」下車

● **西武池袋線・西武新宿線**
「所沢駅」下車　東口より西武バス約25分
「跡見女子大」下車

## 文京キャンパスへのご案内

● **東京メトロ丸ノ内線**　「茗荷谷駅」より徒歩２分
● **東京メトロ有楽町線**　「護国寺駅」より徒歩８分

※新座・文京キャンパスともに自家用車でのご来校はご遠慮ください。

### ■ 新座キャンパス教養講座をオンラインにて受講申込の方へ

**ご案内**
(1) オンライン申込の方は会場での参加はできません
（例：１回目をオンラインで２回目以降を会場でというような受講形態の併用はできません）。
(2) 全３回参加された方には修了証を発行いたしますが、オンライン参加の方への修了証の発行はいたしません。

**誓約事項**
オンラインによる公開講座の参加の際には、「公開講座リーフレット」並びに「本学ホームページ」に記載の誓約事項を必ずご確認の上、受講申込の際に誓約事項に同意されたものとみなします。

**〈オンライン受講に関する誓約事項〉**
(1) 参加は申込み者本人のみといたします。
(2) 付与されたID、パスワードは適切に管理し、他者との共有はいたしません。
(3) 講座内で使用する資料・電子ファイル等の無断転用はいたしません。
(4) 講義内容の録画、録音はいたしません。
(5) 受講に必要なPC・デバイスなどの設備一式の用意、十分な帯域とセキュリティが確保したネットワーク環境を使用いたします
（FreeWiFi等、暗号化されていないネットワークは使用いたしません）。


＜申込・照会先＞
跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY

新座キャンパス
**教務部教務課 公開講座係**
〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL. 048-478-3340
FAX. 048-478-4133
E-mail : d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
https://www. atomi. ac. jp/univ/

文京キャンパス
**文京キャンパス事務室 公開講座係**
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL. 03-3941-7420
FAX. 03-3941-8333
E-mail : d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
https://www. atomi. ac. jp/univ/


## 新座キャンパス

教養コース

### こころの病気と家族

**令和６年６月15日、22日、29日（土）　毎週土曜日〈全３回〉**

| | |
|---|---|
| 時　間 | 10:00〜11:30　　場　所　新座キャンパス／オンライン（リアルタイム配信による同時開催） |
| 対　象 | 15歳以上（中学生を除く）の男女　　定　員　100名（教室）／オンライン定員無制限 |
| 受講料 | 無料 |
| 講座責任講師 | 本学心理学部臨床心理学科　教授　宮岡 佳子 |

**6/15［土］　もしも家族が「うつ」になってしまったら**
講師：本学心理学部臨床心理学科　教授　酒井 佳永

うつ病は、およそ15人に１人が経験する、とても身近な病気です。うつ病は患者さんご本人だけではなく、ご家族にもさまざまな影響をもたらします。本講義では、大切な家族がうつ病になってしまったとき、患者さんとそのご家族がうつ病に早めに気づき、上手に対処するためのヒントをお伝えします。

**6/22［土］　成人期発達障害の人とパートナー**
講師：本学心理学部臨床心理学科　教授　宮岡 佳子

成人期発達障害の方は増えています。成人期では、自閉スペクトラム症と注意欠如多動症（ADHD）の方が多いです。症状のために人付き合いがうまくできないことがあり、家庭内の問題として、パートナーとの関係がぎくしゃくすることも少なくありません。双方が少しでも楽になるにはどうしたらいいかを考えてみます。

**6/29［土］　家族が支援する摂食障害の回復**
講師：本学心理学部臨床心理学科　教授　鈴木 眞理

神経性やせ症や過食症などの摂食障害は主に若い女性の心身症です。神経性やせ症では、極端にやせて、低栄養による命にかかわる合併症があります。過食症は大量の食品をむちゃ食いします。ご家族の心身の負担は他の精神疾患より大きく、家族自身の精神的不調が多いことが知られています。家族として適切な支援について概説します。

**申込方法 受付期間**
Web・往復はがきのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「こころの病気と家族」受講希望　②氏名（フリガナ）　③郵便番号・住所　④電話番号　⑤年齢
⑥職業　⑦本講座をお知りになったきっかけ　⑧次回以降の本学公開講座のご案内のご希望の有無
⑨今回の講座の受講形態　⑩<オンライン希望の場合>メールアドレス※
**受付期間：** 5月13日（月）〜５月24日（金）必着
**受付方法：** Webフォーム（受付開始日よりHP上に設置）・往復はがきのいずれか
E-mailでのお申し込みはお控えください。
**※オンライン希望の場合は、Webフォームのみで申込を受け付けます。**

**申込先 問合先**
**跡見学園女子大学 新座キャンパス 教務部教務課 公開講座係**
〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL. 048-478-3340　FAX. 048-478-4133
E-mail : d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp　https://www. atomi. ac. jp/univ/

※新座キャンパスお申込の方はリーフレット裏面の内容を必ずご確認ください。

## 文京キャンパス

教養コース

### 朗読・跡見ゆかりの作家と作品

**令和６年７月６日、13日、20日（土）　毎週土曜日〈全３回〉**

| | |
|---|---|
| 時　間 | 10:00〜11:30　　場　所　文京キャンパス |
| 対　象 | 15歳以上（中学生を除く）の男女　　定　員　100名 |
| 受講料 | 無料 |
| 講座責任講師 | 本学文学部コミュニケーション文化学科　教授　渡部 英美 |

**7/6［土］　朗読への招待**
講師：本学文学部コミュニケーション文化学科　教授　渡部 英美

跡見女子大の150年の歴史の中から３人の作家の作品のサワリを朗読する。岡本かの子の「池に向ひて」には跡見の古い歴史の描写がある。高田敏子の「娘におくる言葉」は詩人の心のエッセイ。山本道子の「ベティさんの庭」は芥川龍之介賞受賞の作品。跡見出身の先人の思いを、参加者の「声」で伝える。

**7/13［土］　樋口一葉を朗読する**
講師：本学兼任講師　八柄 順子

名作「たけくらべ」の朗読に挑戦します。十代の少女と少年の恋心、大人になっていくことへの不安や悲しみが描かれており、きっと誰もが共感する物語です。昔の言葉遣いで書かれていますので、現代語訳で内容を理解してから原文に取り組みます。物語の情景を思い浮かべ、登場人物の気持ちを感じ取りながら読んでみましょう。

**7/20［土］　岡本かの子を朗読する**
講師：本学兼任講師　黒沢 保裕

芸術家・岡本太郎の母として知られる岡本かの子は、明治時代に跡見女学校で学んだ跡見ゆかりの人物。歌人、仏教研究家、小説家と様々に活動する一方で、家庭を持ちながら男性遍歴を繰り返す奔放な女性でもあった。晩年に専心した小説の代表作の一部を参加者の「朗読」で味わいながら、その作品世界と波乱に満ちた人生を辿っていく。

**申込方法 受付期間**
Web・往復はがきのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「朗読・跡見ゆかりの作家と作品」受講希望　②氏名（フリガナ）　③郵便番号・住所　④電話番号　⑤年齢
⑥職業　⑦本講座をお知りになったきっかけ　⑧次回以降の本学公開講座のご案内のご希望の有無
**受付期間：** 5月13日（月）〜６月７日（金）必着
**受付方法：** Webフォーム（受付開始日よりHP上に設置）・往復はがきのいずれか
E-mailでのお申し込みはお控えください。

**申込先 問合先**
**跡見学園女子大学 文京キャンパス事務室 公開講座係**
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL. 03-3941-7420　FAX. 03-3941-8333
E-mail : d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp　https://www. atomi. ac. jp/univ/

**新座キャンパス 文京キャンパス 共通事項**
●受講特典：全３回全て出席の受講生に、公開講座修了証を発行いたします。
●感染症対策：発熱、体調不良時には公開講座の受講をご遠慮いただく場合があります。
※教養コースは、受付期間終了後、葉書にて受講証を郵送いたします（応募者多数の場合は抽選となります）。
※お申し込みいただいた方々の個人情報は、跡見学園女子大学教務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません（法令などにより開示を求められた場合を除く）。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、本学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載いたします。

令和６年度　秋期

# 跡見学園女子大学の
# 公開講座のご案内

## 新座キャンパス

令和６年
11/9
〜
11/30
毎週土曜日
〈全３回〉

地域再生や表現の自由への対応を考える

教養コース

### 文化マネジメントの未来

共催：新座市教育委員会
後援：埼玉県教育委員会・彩の国教育の日協賛事業

## 文京キャンパス

令和６年
12/7
〜
12/21
毎週土曜日
〈全３回〉

人はどこでなにを愉しんできたのか？

教養コース

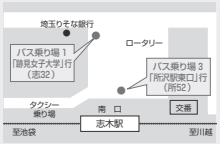
### レジャーを読み解く
—古（いにしえ）のアルプス・銀座・地中海

後援：文京区・公益財団法人文京アカデミー

跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY

## 新座キャンパスへのご案内

● **東武東上線**（地下鉄有楽町線・副都心線）
「志木駅」下車　南口より西武バス約15分
「跡見女子大」下車




● **JR武蔵野線**
「新座駅」下車　北口より西武バス約７分
「跡見女子大」下車

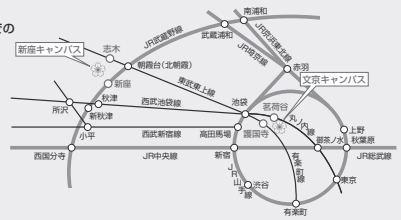
● **西武池袋線・西武新宿線**
「所沢駅」下車　東口より西武バス約25分
「跡見女子大」下車

## 文京キャンパスへのご案内

● **東京メトロ丸ノ内線**　「茗荷谷駅」より徒歩２分
● **東京メトロ有楽町線**　「護国寺駅」より徒歩８分

※新座・文京キャンパスともに自家用車でのご来校はご遠慮ください。

新座キャンパス
文京キャンパスまでの
路線図




<申込・照会先>

跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY

新座キャンパス
**教務部教務課 公開講座係**
〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL. 048-478-3340
FAX. 048-478-4133
E-mail : d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
https://www.atomi.ac.jp/univ/

文京キャンパス
**文京キャンパス事務室 公開講座係**
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL. 03-3941-7420
FAX. 03-3941-8333
E-mail : d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
https://www.atomi.ac.jp/univ/

## 新座キャンパス

教養コース

### 文化マネジメントの未来

**令和６年11月９日、16日、30日（土）　毎週土曜日〈全３回〉**

時　間　10:00〜11:30　　場　所　新座キャンパス（教室未定）
対　象　15歳以上（中学生を除く）の男女　　定　員　100名
受講料　無料
講座責任講師　本学マネジメント学部マネジメント学科　教授　曽田 修司

**11/9［土］**

#### 何故、文化マネジメントが必要なのか

講師：本学マネジメント学部マネジメント学科　教授　曽田 修司

劇場や音楽ホール、美術館・博物館などの文化施設や多くの文化活動は誰がどのように運営（マネジメント）しているのでしょうか。また、文化マネジメントによってどのような社会的価値が生まれるのでしょうか。この講義では、文化事業や文化活動を成り立たせるために、何故マーケティングやイノベーションが必要なのかを考えます。

**11/16［土］**

#### 文化芸術のためのセルフマネジメント／グローカルマネージメント

講師：本学兼任講師　嘉藤 笑子

最近のコロナ禍による孤立や隔離によってコミュニティやコミュニケーションの創出が必要不可欠なものになりました。混迷の時代にはより一層、文化による地域社会の再生を望む声が高まっています。今回は文化芸術において必要なセルフマネジメントの実践と、地域再生やインバウンド効果を考慮したグローカルマネージメントについて言及していきたいと思います。

**11/30［土］**

#### 現代社会の複雑性と文化芸術のマネジメント

講師：本学マネジメント学部マネジメント学科　専任講師　吉川 侑輝

現代社会が複雑化するなか文化芸術に係わる新しい課題が出現しています。それに伴い文化マネジメントの役割も変容が求められています。この講座では表現の自由、「文化の盗用」、そして政治的正しさといった現代的なトピックを具体的な事例を用いて検討します。そうした作業を通じて、文化マネジメントの未来像を探求するのがこの講座の目的です。

**申込方法 受付期間**
Web・往復はがきのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「文化マネジメントの未来」受講希望　②氏名（フリガナ）③郵便番号・住所　④電話番号　⑤年齢　⑥職業　⑦本講座をお知りになったきっかけ　⑧次回以降の本学公開講座のご案内のご希望の有無
**受 付 期 間：** 10月３日（木）〜10月24日（木）必着
**受 付 方 法：** Webフォーム（受付開始日よりHP上に設置）・往復はがきのいずれか
E-mailでのお申し込みはお控えください。

**申込先 問合先**
跡見学園女子大学 新座キャンパス 教務部教務課 公開講座係
〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL. 048-478-3340　FAX. 048-478-4133
E-mail : d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp　https://www.atomi.ac.jp/univ/

## 文京キャンパス

教養コース

### レジャーを読み解く
—古（いにしえ）のアルプス・銀座・地中海

**令和６年12月７日、14日、21日（土）　毎週土曜日〈全３回〉**

時　間　10:00〜11:30　　場　所　文京キャンパス（教室未定）
対　象　15歳以上（中学生を除く）の男女　　定　員　100名　　受講料　無料
講座責任講師　本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科　教授　臺 純子

**12/7［土］**

#### 観光大国スイスの発見 —18〜19世紀の人気スポットを巡って

講師：本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科　教授　河村 英和

かつて英国人にとってのスイス旅行は、アルプスよりも、レマン湖畔に住むルソーやバイロンなどの文人たちの足跡を訪ね、滝や氷河を見ることでした。やがてマッターホルンなど高山の初登攀も彼らが続々と記録をつくり、結核転地療養地としての価値も見出し、サンモリッツをはじめ世界随一の高級ホテル・リゾートを発展させていきます。

**12/14［土］**

#### カフェーから見る銀座史 —赤い灯青い灯の物語

講師：本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科　准教授　小関 孝子

近代文学の舞台にもなっている「カフェー」とはいったいどのような場所だったのでしょうか。客層、メニュー、BGM、インテリア、そして、そこで働く女給たちの生活はどのようなものだったのでしょうか。本講座では1930（昭和５）年の「女給ブーム」に焦点をあてつつ、明治から戦後までのカフェーの変遷をたどります。

**12/21［土］**

#### ぐるっと地中海 —日本人の出国が１千万人を超えたころ

講師：本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科　教授　臺 純子

「観光学」という学問分野では観光産業や観光地振興に関する研究が中心で、観光史に関する研究は、まだまだ少ないのが現状です。今回の公開講座では歴史研究をベースとする研究者が、それぞれ研究対象としてきたテーマをご紹介してきました。最終回は、各国の政府観光局が日本人観光客誘致に力を入れ、円高基調を背景に「海外旅行」が身近な愉しみになったころを振り返ります。

**申込方法 受付期間**
Web・往復はがきのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「レジャーを読み解く－古（いにしえ）のアルプス・銀座・地中海」受講希望　②氏名（フリガナ）③郵便番号・住所　④電話番号　⑤年齢　⑥職業　⑦本講座をお知りになったきっかけ　⑧次回以降の本学公開講座のご案内のご希望の有無
**受 付 期 間：** 10月３日（木）〜11月14日（木）必着
**受 付 方 法：** Webフォーム（受付開始日よりHP上に設置）・往復はがきのいずれか
E-mailでのお申し込みはお控えください。

**申込先 問合先**
跡見学園女子大学 文京キャンパス事務室 公開講座係
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL. 03-3941-7420　FAX. 03-3941-8333
E-mail : d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp　https://www.atomi.ac.jp/univ/

**新座キャンパス 文京キャンパス 共通事項**
● 受講特典：全３回全て出席の受講生に、公開講座修了証を発行いたします。
● 感染症対策：発熱、体調不良時には公開講座の受講をご遠慮いただく場合があります。
※ 教養コースは、受付期間終了後、葉書にて受講証を郵送いたします（応募者多数の場合は抽選となります）。
※ お申し込みいただいた方々の個人情報は、跡見学園女子大学教務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません（法令などにより開示を求められた場合を除く）。
※ 悪天候等、不測の事態が生じた場合には、本学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載いたします。

MEMO

公開講座ダイジェスト 2024
跡見学園女子大学公開講座の記録

令和７年３月発行

発　行　跡見学園女子大学
〒112-8687　東京都文京区大塚1－5－2
電話　03(3941)7420
FAX　03(3941)8333
E-mail　d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
URL　http://www.atomi.ac.jp/univ/